

令和 7 年 第 6 回
富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

I 開会及び閉会の日時

令和7年5月30日（金）

開会午前10時00分、閉会午前10時32分

II 場所

県庁4階大ホール

III 出席委員

1番 大西 ゆかり

2番 松岡 理

3番 坪池 宏

4番 黒田 卓

教育長 廣島 伸一

IV 説明出席者

理事・教育次長

小杉 健

教育次長・教育みらい室長

中崎 健志

教育次長

板倉 由美子

教育企画課長

森安 祐成

教育みらい室小中学校課長

木下 貴子

教育参事・教育みらい室県立高校課長

土肥 恵一

教育参事・教育みらい室特別支援教育課長

魚津 直美

教育みらい室県立高校改革推進課長

丸田 祐一

教職員課長

安川 賢一

保健体育課長

五島 直樹

教育企画課課長（ICT教育推進担当）

五十嵐 佳美

教育みらい室課長（児童生徒支援担当）

岡本 一善

教育みらい室課長（夜間中学設置準備担当）

岩田 理恵子

生涯学習・文化財課課長（青少年・家庭成人教育担当）

河原 千里

保健体育課課長（食育安全担当）

松嶋 保子

V 傍聴人数 3人

VI 会議の要旨

午前10時00分、教育長が開会を宣する。

1 会議録の承認について

令和7年4月30日開催の令和7年第5回富山県教育委員会会議録

会議録閲覧

廣島教育長から可否を諮ったところ、全員異議なく承認した。

2 報告事項

(1) とやま科学オリンピック2025の開催について

教育企画課長から説明した。

(2) 第3回富山県公立夜間中学設置検討協議会の報告

教育みらい室課長（夜間中学設置準備担当）から説明した。

(3) 令和7年3月高等学校卒業者の就職状況について

教育みらい室県立高校課長から説明した。

- 3 今後の教育委員会等の日程について
教育企画課主幹から説明した。

4 議決事項

午前 10 時 28 分、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第 7 項ただし書の規定に基づき、議案第 12 号および議案第 13 号については、委員全員の同意により会議を非公開とすることを可決し、議事の審議に入った。

議案第 12 号 令和 8 年度使用義務教育諸学校用教科用図書の採択に係る諮問事項の件

議案第 13 号 令和 7 年度富山県教科用図書選定審議会委員委嘱（任命）の件

教育みらい室小中学校課長から説明し、原案のとおり可決した。

なお、非公開で審議した議案第 12 号および議案第 13 号については、適切な時期に公表することを決定した。

5 議事

○報告事項(1)(2)関係

〔坪池委員〕

・今、お手元に東京大学の 2003 年の入試問題をお配りしたが、この問題は「円周率が 3.05 より大きいことを証明せよ」というものである。これはそもそも言うと、当時の学習指導要領が小学校で円周率が 3.14 として教えよ、ただし必要があれば 3 にする配慮をせよという、いわゆるゆとり教育の円周率 3 問題に関わるもので、そのことを多分東大が踏まえて、文科省の意図を分かるように出している。具体的にどう解いていくかという、円に内接する正十二角形の外周を求めていく問題である。それが今の新しい東京書籍の小学校の算数の教科書に、正十二角形の外周を求める問題が出ていて、しかも円周率の中で求める問題で、相当レベルが高いと思う。こういう高校とか大学でやることを下におろしていく意味だが、この問題で言うと、多角形の角度が大きくなっていくと極めて円に近くなるというイメージの問題である。こういうイメージというのは若ければ若いほど定着するというのがあり、小学校でやる意義があると思う。今、小中学校でよく言われる発展的な問題というのは、習ったことを実社会に応用できる、つまり有用論的な発展問題だが、そうではなくて、このあと学ぶべき内容にいざなうような形の発展的な問題もあるのではないかと思う。こういうことを、科学オリンピックで何か作問できないかと思っている。この教科的な価値というのは、小学校の教員よりも高校の教員のほうが分かるので、小中高が連携して、科学オリンピックにかかわらず、いい教材あるいは問題を作っていくような機会となればいいのかと思っている。

・もう一つ、夜間中学についてだが、パンフレットに「週 5 日、17 時から 21 時の間に」と書いてあるが、17 時から 21 時というのはパンフレットで突然出てくる。例えば基本方針の中に、こういうことは書いていない気がするが、大事なことなので基本方針の中に入れてはどうか。

〔教育長〕

・科学オリンピックの作問については、これから委員にいただいたポイントを踏まえて、どういったことが可能か事務局において整理させていただきたい。

〔教育みらい室課長（夜間中学設置準備担当）〕

- ・今ほどの夜間中学の時間については、場所との兼ね合いもあるので、決まっていき次第付け加えていきたいと思っている。

〔黒田委員〕

- ・科学オリンピックに関しては、去年から地学が抜けているので入れておいたほうがいいんじゃないかという話をしてきたが、地学も含めて総合的な問題で、また団体戦という形で行われるというのは、非常にいい形になったと思う。ただし心配なのは、報告の中で細かく説明はなかったが、高校の参加者がちょっと減ってきているのではないかと。そういった中で今後、個別戦と団体戦みたいな形に分けていった場合に、どれぐらいの参加者が集まるのかということは危惧している。そのあたりをぜひ各高校に周知していただいて、いろんな生徒が参加できるように配慮いただければと思う。
- ・もう1点、夜間中学についてだが、着々と進んでいていいかなと思う。ただ、先ほど坪池委員がおっしゃったとおり、17時というのは仕事をしている人にとってはほぼギリギリで、間に合うのか間に合わないのかというところがちょっと心配かなと思う。また時間については、この後も検討されるということなので、ぜひ対象となるような人について、日本人の不登校の人とかはなかなか掴みにくいかもしれないが、外国人の方の場合だとそういう方がたくさんいらっしゃる事業所などはある程度掴めるのではないかと。そういう事業所などにこの案内とかを配布いただいて、今の段階から「こういうものがはじまるよ、ちょっと考えておいてね」と仕掛けていただければいいのかなと思う。

〔教育みらい室課長（夜間中学設置準備担当）〕

- ・本当にその通りだと思っている。今いろんなところに足を運んでお話を聞いているところ。

〔教育企画課長〕

- ・科学オリンピックについて、先ほど説明を省いてしまったが、資料の2ページの3番に参加者数を記載しており、ご指摘のとおり高校部門の参加者は昨年度187人で、その前の年から減少している。3ページの5番にアンケートの結果もあるが、「また参加したいですか」という項目では、高校部門では参加したいと感じた割合が昨年度55パーセントと、前回よりも下回る結果となっている。今年度はやり方も変えて、募集も工夫しながら取り組み、そこから出てくる課題をクリアしながら実施していけたらいいと思っている。

〔大西委員〕

- ・科学オリンピックについて感想的なことだが、アンケートの結果を拝見すると、参加された生徒さんたちが非常によかった、面白かったと学びに対して積極的な感想を持っていらっしゃるようで非常にいいと思う。関連があるかは分からないが、高校で探究科が定員割れしている学校もある。子どもや大人、保護者の方が探究的な学びの魅力や大事さ、重要性、STEAM教育についても興味を持っていただいたり、理解していただいたりするような広報的な活動も、昨年度も動画を作られて高校生や先生方の声が聞けてよかったなと思っているが、引き続きそういう活動も必要なのかなと思っている。

午前10時32分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。